

僕のロボットが一番!



自走ロボットを前に、プログラムに取り組む中学生

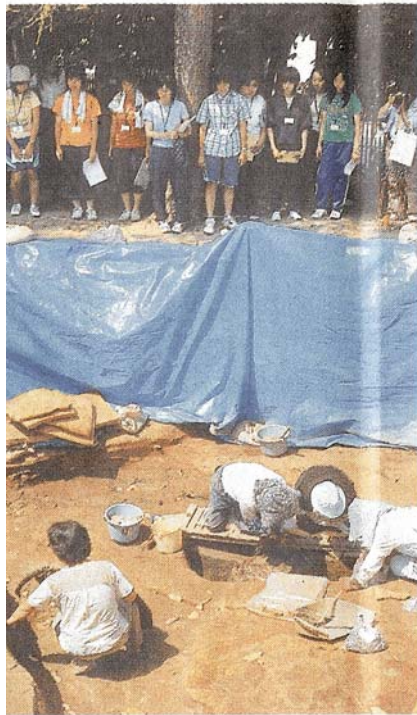
弘前三中生31人が製作

科学技術などに対する興味・関心を育成しようとして、弘前大学理工学部で、八、九の二日間、中学生が自走ロボットの製作を手掛ける体験講座が開か

れた。独立行政法人科学技術振興機構(東京都)が支

援する「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の一環。弘前市立第三中学校の生徒三十一人が参加し、理工学部の佐川一助教授や学生らが指導に当たった。生徒たちは初日にハンダ付けなどでロボットを組み立て、二日目の九日はパソコンで、内蔵するマイクコンピュータのプログラムに工夫を凝らした。完成したロボットで生徒たちはタイムを争うコンテストを行うなど、出来栄を競った。三年生の八木橋恵太君は「ロボット製作は普段でできない。楽しい」とパソコン画面に向かってい

科学体験



吉川さん(左下)から発掘現場の地層を学ぶ参加者

視察に訪れた科学技術振興機構の穂坂敬一主任調査官は「学校と大学の連携が重要で、人材育成につながる。子どもにとって、大学に足を運ぶだけでなく、刺

激」などと話していた。(鎌田秀人)

代の森研究会(宮城県)の吉川純子さんは、遺跡の地

層に含まれる化石を分析し、縄文時代の植生や人間と植物とのかわりを知する方法を説明。「理系、文系にかかわらず、探究心や疑問を持って取り組んでほしい」と励ました。

高校生は実際に発掘現場で土を採取、選別した種子や化石を顕微鏡で観

高さ20m 幟柱復活

弘前



夏休み
力の恐

コ

代展実 (同四百円)。この料金 会一カ月前をめぐり販売
れ、委 には常設展示の観覧料も する予定。

少年は今後、起訴され、
成人と同様の刑事裁判を

未熟な人格であっても、「のく」を営業する「KY」もセンターが調べたこと

調理器
ど衛生
掛けて、

ノレコ
二弾に
ンセブ
「楽
代表す
文遺物
映像、
多分野
示、紹
スなど
現代作
にした
げでな
を吹く
ト(検
ター
作品、
像を体
も多数
ワーク
ーマン
作品解
いる。
五百円
、大
円(同

それぞれ自慢の梵天丸で大会を楽しんだ中学生たち



自走ロボットでコンテスト

弘大で三中生製作

難しさと感動体験

弘前大学理工学部(南 授と学生の指導の下、コ 條宏肇学部長)は八、九
の両日、サイエンス・パ
ートナーシップ・プロジ
エクトとして「自走ロボ
ット製作とロボットコン
テスト」を同大総合情報
処理センターで開いた。
参加した中学生たちはロ
ボット製作やコンテスト
を通じ、思い通りに動か
すことの難しさと成功の
感動を体験した。

同イベントは理科教育
を充実させ、ロボット製
作を通じて理科への関心
や興味をもってもらおう
と、今年初めて開催。二
日間とも、弘前第三中学
校の生徒約三十人が参加
した。

同学部の佐川貢一助教

平和祈念式典で、平和宣言後に放たれたハト→9日前、長崎市
松山町の平和公園

弘前大学理工学部(南 授と学生の指導の下、コ 條宏肇学部長)は八、九
の両日、サイエンス・パ
ートナーシップ・プロジ
エクトとして「自走ロボ
ット製作とロボットコン
テスト」を同大総合情報
処理センターで開いた。
参加した中学生たちはロ
ボット製作やコンテスト
を通じ、思い通りに動か
すことの難しさと成功の
感動を体験した。

その後ロボットのレース
が行われ、障害物を察知
すると進行方向を変える
など個性的なロボットが
笑顔を話した。

優勝した三年の福田聖
也君(もは二日間かけ
て頑張ったので、
優勝できてうれしい」と
笑顔で話した。

韓国カルト集団「摂
理」の教祖鄭明析容疑者
が九日、在留資格を不
正に取得したとして、入
管難民法違反(資格外活
動)の疑いで、十日に千
葉市在住の韓国人の女性
教団幹部(四)を千葉中央

「摂理」女性幹部を告発へ
弁護士らが入管法違反で
韓国のカルト集団「摂
理」の教祖鄭明析容疑者
が九日、在留資格を不
正に取得したとして、入
管難民法違反(資格外活
動)の疑いで、十日に千
葉市在住の韓国人の女性
教団幹部(四)を千葉中央

三沢
十六分
が、濃
が、濃